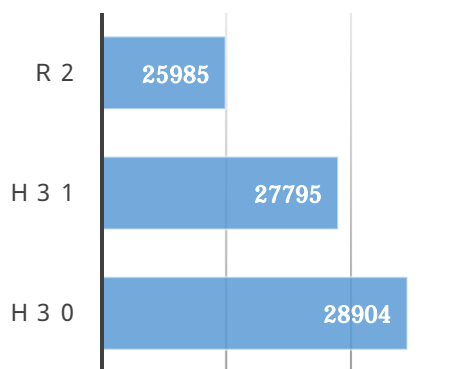
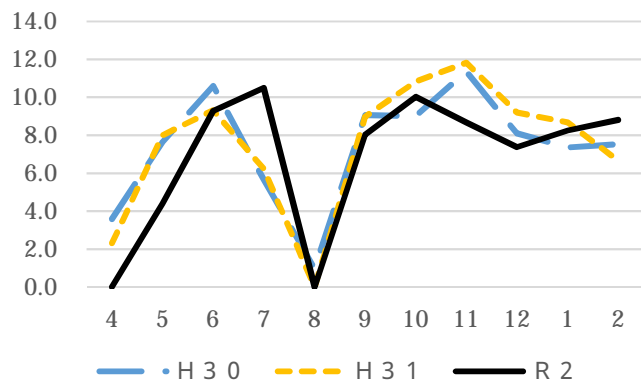


図 書 貸 出

2月までの貸出冊数合計



1人当たりの平均貸出冊数月別推移



上記のグラフは、赤崎小学校における図書室の図書貸出冊数の推移を表したものです。左のグラフを見ると2月までの貸出冊数ではありますが、過去2カ年に比べてやや減少しており、残念な気持ちになりました。

しかし、今年度に関しましては、右の月別推移グラフを見られるとお分かりのように、年度初めから6月までの期間と11月から12月までの期間に落ち込みが見られます。この期間は、ちょうど臨時休校やその後の3密を避ける学校生活の模索の期間であったり、コロナウイルス感染拡大の状況が再燃し始めたりした時期と重なっていることが分かります。そのため、積極的な読書活動推進への働きかけが十分できないところの影響があったのかもしれないと考えています。特に11月は、通常であれば読書推進月間ということで、貸出冊数の伸びが一番見られる時期です。この時期の影響は大きいものがあったと思います。そう考えますと、コロナ禍の生活の中で読書に関してもよくがんばった方ではないのかなと手前勝手かもしれませんが、そのような感想をもちました。

今年度、図書担当の松永教諭と恒川学校司書が中心となって、個人の貸出冊数の目標を低学年：100冊、中学年：80冊、高学年：70冊としました。その目標には2月の時点では全学年あと一歩という段階でした。しかし、先述したような状況の中で、子どもたちはよく励んだと思っています。ぜひ、このことはご家庭でも褒めてあげていただきたいと思っています。

読書活動は、即効性はないかもしれませんが、継続することで、以下のような効果を期待することができます

語い力、読解力、表現力が高まる。

さまざまな考え方を知り、違いを認める力、豊かな心がはぐくまれる

自学の基礎が培われる。

今後も継続できるように、子どもたちを励ましていきたいと思っています。そして、読書活動の量から質への働きかけについても、今後取り組んでいきたいと思っています。

スマートスクールSASEBO

少し間が開いてしまいましたが、「スマートスクールSASEBOは、なぜ必要なのか」、GIGAスクールと読み替えて考えていきたいと思えます。

文部科学省が提唱する「GIGAスクール構想」は主に次の2点から必要だとされています。

1 情報活用能力の育成

現在、情報技術は急激な進展を遂げ、我々の日常生活に深く浸透しています。その結果、多種多様な情報が簡単に得られるようになりました。また、インターネットショッピングや動画共有サイト等の情報技術を駆使したサービスなども日常生活において当たり前の存在になってきています。キャッシュレス社会など、一昔では考えられないような新しい価値やサービスが創出され、好むと好まざるとに関わらず、わたしたちの生活に深く入り込んできています。

Society 5.0（ソサエティ5.0）。これは、わたしたち人類がこれまでたどってきた「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く5番目の来たるべき社会の在り方とされています。第4次産業革命と呼ばれる情報技術の急激な進展、ビッグデータとよばれる巨大な情報の活用、人工知能（AI）の進化・普及など、今の子どもたちが大人となって暮らす社会は、生活様式も働き方も大きく変化していることはこれまでも言われてきていることです。その来たるべき社会、ソサエティ5.0において、情報活用能力は生きていくために必要な力とされているのです。

そのような中、国際学力調査（PIISA）における日本の子どもたちの読解力の低下が取りざたされています。この傾向が見られるようになったのは、PIISAにおける読解力の調査の内容にある変化が起きた時期と一致するそうです。

その変化とは、読解力調査の内容が「パソコン上で操作を想定した情報の読解」になったことを指しています。つまり情報活用能力です。インターネットのように通信技術と活用した産業や仕組み（ICT）は世界中で使用され、そこに反映できる能力が生きていくための読解力として、必要だと世界的に求められていると考えられます。

その力が日本の子どもたちが落ち込んでいるのです。

「ネットでのチャット」「一人用のゲーム」「多人数でのオンラインゲーム」。

2018年のOECDの調査において、日本の子どもたちは上記の項目については、世界的な標準を大きく上回っていました。

それと比較して、「コンピュータを使って宿題をする」「学習のためにインターネットを使う」「授業後、関連資料をコンピュータを使って調べる」という項目においては、大きく世界平均を下回っていました。

つまり、パソコン、インターネットのようなICTは趣味や遊びには大きくつながっているのですが、学習にはあまりつながっていなかったのです。

学習とICTをつなぐためには、GIGAスクール構想、すなわちスマートスクールSASEBOのような環境整備が必要だと考えられたのです。

2 誰一人取り残さない教育

また、子どもたち一人一人の特性（得意分野や不得意分野といった習熟度を含めた）に個別に対応することができ、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても不安なく学習が継続できることを目指すために、これまでの実践とICTの活用を適切に組み合わせることで、これからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し、学びの質を向上させる。この実現のために、GIGAスクール構想、すなわちスマートスクールSASEBOのような環境整備が必要だと考えられたのです。

しかし、「スマートスクールSASEBO（GIGAスクール）」構想を進めていく上で、考えておかななくてはならない課題も当然あります。何事も万能ということはないからです。

別の機会にはなりますが、そのことについてもまた、記させていただきたいと思えます。